

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 25 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370831

研究課題名(和文)19世紀末から20世紀初頭におけるトルコの音響文化

研究課題名(英文)Sound Culture in Trukey: From the end of 19th to the beginning of the 20th centuries

研究代表者

松本 奈穂子(Matsumoto, Nahoko)

東海大学・教養学部・准教授

研究者番号：20453706

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：主に19世紀末から20世紀初頭のオスマン朝末期およびトルコ共和国初期における音響文化の諸相について演劇、祝祭、音楽、舞踊の4分野から研究をおこなった。演劇(永田)では関連資料の収集とそれによる研究成果のトルコ語出版(2017年中予定)の準備・執筆を行った。祝祭(奥)では19世紀オスマン帝国における近代国家式典に関する史資料調査を行った。特に祝砲・礼砲に着目し、オスマン帝国の祝祭に近代西欧式の号砲数が導入された経緯を検討し、学会発表を行った。音楽・舞踊(松本)では楽譜、歌詞集、雑誌・新聞記事・関連資料を調査し、論文6本、発表5本を公表した。2017年中に研究成果のトルコ語出版を予定している。

研究成果の概要(英文)：In this research project, various spheres of sound culture from the late 19th to the early 20th centuries in Turkey were researched, from the light of theater, royal festivities, music and dance. Nagata had prepared and written for the publication of a book in Turkish. This book shall be published by a publisher, Dergah, in Istanbul and the manuscript for publication was sent already to Hatice Aynur. Oku had researched into royal festivities and gun salutes. She made two presentations in 2016("From Sur-i Humayun to Modern State Ceremonies: The Occasions and Transformation of the Ottoman Royal Festivities", JAMES-32, Tokyo, JAPAN) and 2017("Power and Festivity in the Ottoman Empire: Toward a Comparative History", Japonya 'da Sohbet-i Osmaniye-4). Matsumoto had researched into music and dance. Matsumoto have also made five presentations(including Tanburi Cemil Bey Symposium in 2016 in Istanbul) and published six articles, and will publish a book in Turkish within this year.

研究分野：音楽

キーワード：オスマン帝国 音楽 演劇 舞踊 祝祭 祝砲 トルコ共和国 表象文化

1. 研究開始当初の背景

600年以上の歴史を誇るオスマン帝国は、その前身であるイスラーム以前の芸術遺産も継承発展させて豊かな芸術文化を展開させた。「音」に関わる音響文化の分野においてもそれは同様であり、これまでに多くの研究がなされている。

本研究は、音楽のみならず、舞踊、演劇、文学という異なる分野の専門家による学際的な研究を志している。これらの分野はそれぞれ独立して研究が進められ、多くの成果を出してきているが、もともと文化というものは異なる芸術要素が複雑に結合することで、さらなる相乗効果と奥行を生み出すものである。音響文化も同様で、音楽、歌、舞踊、演技、台本、詩などの諸要素が融合することで、豊かな音響文化を形成する。その諸相を明らかにするためには、各分野からの詳細な研究とその統合が不可欠である。しかしながら、これまで音楽・舞踊・演劇・文学といった異なる分野の研究者による共同研究はほとんど行われてはいないのが現状である。

研究分担者永田雄三は、19世紀末から20世紀初頭、すなわちいわゆる世紀末におけるイスタンブールの伝統演劇と西洋演劇との接触に伴う文化変容の様態を、音楽性・喜劇性・即興性に満ちた大衆演劇に焦点を当て、科学研究費補助金の支援を得て明らかにした。本研究ではこれらの成果をもさらに発展させる計画である。

2. 研究の目的

こうした学術的背景を踏まえ、本研究では主に19世紀末から20世紀初頭のオスマン朝末期およびトルコ共和国初期に焦点をあて、音楽、舞踊、演劇、文学の4分野からの研究・調査・分析を行い、総合的な考察を行うことにより、トルコにおける音響文化の諸相とその変遷、とりわけ西洋との文化接触による

イスラーム文化の近代的変容の一側面を明らかにすることを目的とする。本研究の時期を上記のように定めた理由は、トルコの伝統文化が西洋文化と接触した時期、すなわち伝統文化の異文化との接触による文化変容の様態を「音響文化」の視点から明らかにしようとする意図による。

3. 研究の方法

本研究では、オスマン語、トルコ語で発行された演劇・舞踊・音楽に関連する雑誌・パンフレット、ポスターや、楽譜・歌詞集などの一時史料および研究文献の分析を行う。その中でも、研究分担者永田雄三がすでに研究成果を出している、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所蔵のオスマン朝期の演劇資料170点は、質・量ともにきわめて重要な演劇資料であるとともに、音楽・舞踊関連情報も多数含まれていることが見込まれるため、音楽学・舞踊学の観点からも分析に着手する。

4. 研究成果

本研究は各専門家により各ジャンルからの研究が個別に行われたので、ここでは個別の成果として記す。なお、2年目より奥美穂子が祝祭とりわけ祝砲・礼砲という音に関わる分野で研究協力者として参加をしたため、当初の予定よりも研究対象に広がりをもたせることが可能となった。また、いずれの資料確認作業でも、研究協力者ハティジェ・アイヌル HATICE AYNUR の貴重なアドバイスを得ることができた。

(1) 演劇(永田担当)

東京外国語大学所蔵のオスマン演劇台本31冊の内容を確認、全ページの電子データを作成し、来年度の調査に向けての基礎を固めた。この台本は、まず当時書かれた写本であること自体に大きな価値があるだけでなく、当時を代表する俳優・演出家による芝居

であること、共和国発足まもないころにイスタンブール警察署の検閲の結果「上演してもよろしい」との許可印が押されていること、電子データの質が大変良いこと、当時「即興劇（トゥルアート）」と呼ばれた演劇においても検閲のために台本が作成されていたことなど、きわめて重要な史料であることが確認された。

また、オスマン帝国末期のイスタンブールにおける演劇活動に関する資料の収集とそれによる研究成果のトルコ語による出版(『Son Osmanlı Döneminde İstanbul'da Tiyatro ve Çevresi —Bir Kentin Toplumsal Tarihi Açısından—』)のための準備と執筆を行った。この本の原稿はイスタンブールの Dergah 書店から出版の予定であり、原稿は研究分担者 Hatice Aynur を通じてすでに提出済みである。

(2) 祝祭(奥担当)

主に 19 世紀オスマン帝国における近代国家式典に関する史資料調査・収集を行った。なかでも「音」としての祝砲・礼砲に着目し、オスマン帝国の祝祭に近代西欧式の号砲数が導入された経緯に関する検討をすすめた。

調査・研究成果の一部は、日本中東学会第 32 回年次大会(2016 年 5 月 15 日於慶應義塾大学)において、「王の祝祭」から近代国家祝典へ：オスマン帝国における王権祝祭の契機と変容」と題して報告を行った。

また、トルコ人研究者デリン・テルズィオール氏を招いて行われた研究会 Japonya'da Sohbet-i Osmaniye-4(2017 年 3 月 21 日於千葉大学)において“Power and Festivity in the Ottoman Empire: Toward a Comparative History”と題した英語による報告を行った。

(3) 音楽・舞踊(松本担当)

オスマン朝末期からトルコ共和国初期に

かけて出版された楽譜・歌詞集、新聞、雑誌等一時史料の収集をアタテュルク図書館、国立イスタンブール音楽院、イスラーム研究センター、ユルドゥズ宮殿から移管された楽譜が数多く収められているイスタンブール大学希少書図書館等を中心に行った。

オスマン朝末期の五線譜による楽譜は、出版時期によりピアノ伴奏付や旋律のみのトルコ古典音楽譜など激動の時代を示す多様な楽譜が出版され、音程を示す記号の工夫の変化なども見てとることができる。『マールマート』誌付録楽譜も含め、ハジュ・エミン・エフェンディの楽譜群は、ザドルヤンやクトマニザーデらのそれと並んで重要な音楽資料の一部である。今回収集できた楽譜はほんの一部で今後も継続収集・分析が必要であるが、収集の過程で行進曲が数多く作曲されていることも明らかとなった。スルタンへの献呈曲や時の主要テーマが多くとりあげられ、時代を映す鏡としても機能している様子がかがえた。他の資料の機能の変遷についても今後精査する必要がある。

オスマン朝末期からトルコ共和国初期にかけて重要な約割を果たした旋律学校出版のトルコ古典音楽を収集した旋律学校全集の分析を行い、2016 年に論文発表を行った。

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所蔵のオスマン朝期の演劇資料 170 点に関しても音楽・舞踊関連データを収集・分析し、2016 年に論文発表を行った。また、同資料の音楽関連データをもとに、2015 年には日本音楽学会にて、2016 年には、オスマン朝最大のヴィルトゥオーゾと称されるタンブーリー・ジェミール・ベイ没後 100 周年を記念して、イスタンブール大学、シェヒル大学、タンブーリー・ジェミール協会の共催にてイスタンブールで開催されたシンポジウムにて発表を行った。トルコにおける発表では、これまでトルコの音楽研究において演劇資料は研究対象として扱われてこなかった

ため反響を呼び、同種の資料所蔵先の情報提供を得ることができた。

雑誌・新聞記事等から収集した音楽関連情報には知識人らの論考も数多く掲載されている。この分野はトルコにおいて比較的研究 - というよりは現代トルコ語訳 - が比較的進んでいる分野であるが、これまで研究者たちによって言及されなかった関連記事等も発見できている。この成果の一部は下記に言及するトルコ語本および日本語論文にても発表予定である。これらの論考に関する記事はさらに収集・分析を続ける。

トルコの伝統的なジャンルと西洋伝来のレパートリーは棲み分けが意図され、イデオロギー的には西洋音楽が上位に位置づけられたにもかかわらず、実際には両者は相互に影響を与え合いつつ共存し、現在では行われていない数多くの表演形態とともに、当時の人々に享受されていたことが明らかとなった。音楽・舞踊に関する研究成果をトルコ語にてまとめた本を 2017 年中に出版予定である。今後も当面は継続するであろう同時期の音楽・舞踊研究をさらに深めるための基盤を本研究にて固めることができたと考える。

今後はさらに個々の研究を発展させるとともに、これまで個別に行った各分野の研究成果を統合させていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

1 永田雄三「文献紹介：三木亘『悪としての世界史』文春ライブラリー 2016 年」、『世界史研究所ニューズレター』第 29 号、2017 年、1-7 頁。

2 松本奈穂子「東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所蔵のオスマン朝末期演劇興業資料に見られる音楽関連データ」、

東海大学教養学部紀要 46 巻、2016 年、143-190 頁。

3 松本奈穂子「旋律学校全集：トルコ古典音楽楽譜集」、東海大学教養学部紀要 46 巻、2016 年、31-56 頁。

4 松本奈穂子「オスマン帝国末期の洋楽受容」、東海大学教養学部紀要 45 巻、2015 年、139-153 頁。

5 松本奈穂子「オスマン朝の行進曲」、東海大学教養学部紀要 45 巻、2015 年、347-354 頁。

6 松本奈穂子「オスマン朝末期の楽譜」、東海大学教養学部紀要 45 巻、2015 年、291-298 頁。

[学会発表](計 6 件)

1 奥美穂子“Power and Festivity in the Ottoman Empire: Toward a Comparative History”, Japonya’da Sohbet-i Osmaniye-4, 千葉大学、2017 年 3 月 21 日。

2 奥美穂子「「王の祝祭」から近代国家祝典へ：オスマン帝国における王権祝祭の契機と変容」、日本中東学会第 32 回年次大会、慶應義塾大学、2016 年 5 月 15 日。

3 松本奈穂子“Osmanlı Dönemi Tiyatro İlanlarında Yer Alan Tanburi Cemil Bey ile Çağdaş Bestekârların Eserleri ve İcraları”, Tanburi Cemil Bey Symposium, Sehir University, 2017 年 10 月 13 日

4 松本奈穂子「オスマン朝末期の演劇ポスターに見られる音楽活動」、日本音楽学会第 66 回全国大会、青山大学、2015 年 11 月 15 日

5 松本奈穂子「オスマン朝末期の楽譜」、東洋音楽学会第66回大会、2015年11月1日。

6 松本奈穂子「オスマン朝の楽譜」、音楽と社会フォーラム第12回研究会、東京大学、2015年3月28日

〔図書〕(計 1件)

永田雄三；江川ひかり 『世紀末イスタンブールの演劇空間』白帝社、2016年、362頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 奈穂子 (MATSUMOTO NAHOKO)

東海大学 教養学部 准教授

研究者番号：20453706

(2) 研究分担者

永田 雄三 (NAGATA YUZO)

公益財団法人東洋文庫 研究部 研究員

研究者番号：20014508

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：

(4) 研究協力者 ()